

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 16 日現在

機関番号：33902
 研究種目：基盤研究(C) (一般)
 研究期間：2014～2016
 課題番号：26370058
 研究課題名(和文)『アヴァダーナ・カルパラター』を中心とした仏教信仰の諸相

研究課題名(英文)The Buddhist Aspects as seen in the Avadanakalpalata

研究代表者

引田 弘道(Hikita, Hiromichi)

愛知学院大学・文学部・教授

研究者番号：00192287

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：11世紀にカシミールにおいて編纂された『ボーディサットヴァ・アヴァダーナ・カルパラター』の、サンスクリット語文献の翻訳研究を行った。三年間の助成期間で、第29章「カーシスンダラ物語」から、第38章「クシャーンティ物語」までの章、および前書きの和訳を行った。また本文献に基づく美術作品の分析を行い、説話図においてそれぞれの物語と情景の同定を行い和訳と同時に発表した。さらに、本文献と関連を示す類話や絵画の研究を行い、本文献を中心とするインド北部からチベットに至る仏教文化の諸相について数編の論文に表した。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study is to translate Bodhisattva-avadana-kalpalata from Sanskrit and Tibetan to Japanese with annotations, to investigate paintings based on the text, and to study some aspects of Buddhist practices in North India and Tibet. Among the 108 chapters of the text, from the 29th to the 38th chapters and the introductory remarks have been translated. The translations have been or will be published with identification of the stories and scenes in paintings based on the descriptions of the texts. Related to the text, some studies has also been published to investigate various aspects of Buddhist practices.

研究分野：印度学仏教学

キーワード：アヴァダーナ 仏教説話 サンスクリット文学 チベット仏教美術 仏教説話図

1. 研究開始当初の背景

『ボーディサットヴァ・アヴァダーナ・カルパラター』(「菩薩の偉業物語の華鬘」、以下『カルパラター』とする)は、11世紀のカシュミールの詩人クシェーメンドラによって編纂された108章からなる作品である。『カルパラター』は、アヴァダーナ文学としては比較的新しい作品ではあるが、ネパールやチベットへ流布し、両地域の文学的な仏教文献に多大な影響を及ぼした。また、『カルパラター』のチベット仏教美術への影響は多大で、チベットで制作された軸装絵画や、チベットの僧院や仏塔の壁画に、『カルパラター』を典拠とする作品が多く観察される。

これまでに『カルパラター』の108章全ての翻訳は発表されていない。日本や海外の研究者によって数十篇ほどになる各章の翻訳が発表されてきた。しかし、『カルパラター』について言及する時、不完全な抄訳に頼ることが多くあった。これは『カルパラター』を典拠とする絵画についての研究でも同様であった。

2. 研究の目的

このように『カルパラター』についての、文献を中心とする研究および美術史における研究はどちらも立ち遅れている。そこで以下のような目的のもとに研究を行った。

- (1) サンスクリット語文献を翻訳し、主題を同一にする諸資料との比較する
- (2) このテキストに基づいて表された美術作品の分析を行う
- (3) インド北部を中心とする仏教信仰の諸相を解明する

3. 研究の方法

まずは、これまでに発表されていない章を中心に『カルパラター』のサンスクリット語とチベット語からの邦訳を行う。さらに、成立地や時代が異なる漢訳やパーリ語の文献で、主題を同一にする説話を翻訳し、比較対照する。次に『カルパラター』に基づく美術作品と比較し、文献との相違について考察を行う。邦訳を行うすべての章について以下の手順で研究を行う。

- (1) 『カルパラター』の翻訳
- (2) 『カルパラター』関連文献の収集・翻訳
- (3) 『カルパラター』関連資料の分析
- (4) 『カルパラター』典拠の美術作品の現地調査
- (5) 画像資料データベース作成
- (6) 画像資料と文献との比較分析

4. 研究成果

本研究の助成期間は三年間で、当初の計画に

従って研究をすすめ、予想通りの成果を得た。

(1) 『カルパラター』の翻訳と絵画における同定

第29章「カーシースンダラの物語」と第30章「スヴァルナパールシュヴァの物語」サンスクリット語とチベット語のテキストを邦訳し、関連資料の分析を行った。「カーシースンダラの物語」は第38章の「クシャーンティの物語」と重複する要素があることを確認した。「カーシースンダラの物語」が表される絵画について物語と情景の同定を行った。

第31章「カルヤーナカーリンの物語」と第34章「スタッタ長者の物語」サンスクリット語とチベット語のテキストを邦訳し、関連資料の分析を行った。第31章については、『根本説一切有部毘奈耶破僧事』をはじめとする漢訳文献、第34章に関しては『カルパラター』第46章と第70章についても分析を行った。「カルヤーナカーリンの物語」と「スタッタ長者の物語」が表される絵画について物語と情景の同定を行った。

第32章「ヴィシャーカの物語」と第33章「ナンダ・ウパナンダ龍王の物語」サンスクリット語とチベット語のテキストを邦訳し、関連資料の分析を行った。第33章については、『ディヴィヤ・アヴァダーナ』や『雑阿含経』をはじめとする漢訳仏典、パーリ語の注釈文献である『清浄道論』における類話の分析を行った。「ヴィシャーカの物語」と「ナンダ・ウパナンダ龍王の物語」が表される絵画について物語と情景の同定を行った。

第35章「ゴーシラの物語」サンスクリット語とチベット語のテキストを邦訳し、関連資料の分析を行った。分析の対象は『根本説一切有部毘奈耶破僧事』をはじめとする漢訳文献や『ディヴィヤ・アヴァダーナ』等である。「ゴーシラの物語」が表される絵画について物語と情景の同定を行った。

第36章「プールナの物語」サンスクリット語とチベット語のテキストを邦訳し、関連資料の分析を行った。分析の対象は『根本説一切有部毘奈耶薬事』(漢訳および蔵訳)『ディヴィヤ・アヴァダーナ』、『賢愚経』、『スッタ・ニパータ』等である。また、注目すべき点として、テキストに説かれる経の問題、都市の名前についての考察、懺悔の問題について分析・考察した。「プールナの物語」が表される絵画について物語と情景の同定を行った。

第37章「ムーカパングの物語」

サンスクリット語とチベット語のテキストを邦訳し、関連資料の分析を行った。分析の対象はパーリ語の『ジャータカ』、『根本説一切有部毘奈耶』をはじめとする漢訳仏典、『根本説一切有部律薬事』をはじめとする蔵訳仏典等である。また、テキストに説かれる捨墮法について分析・考察した。「ムーカパングの物語」が表される絵画について物語と情景の同定を行った。

第38章「クシャーンティの物語」
サンスクリット語とチベット語のテキストを邦訳し、関連資料の分析を行った。また、『ディヴィヤ・アヴァダーナ』に所収される同物語の翻訳を行った。「クシャーンティの物語」が表される絵画について物語と情景の同定を行った。

前書き（蔵訳ではあとがき）
サンスクリット語とチベット語のテキストを邦訳した。この箇所は『カルパラター』の成立や伝承が記される重要な部分であるが、これまでに翻訳されたことがなかった。この箇所に言及される人物は物語を表す絵画の一部に表されていることを確認した。

上記のすべての翻訳は、英語と仏語による抄訳とチベット語訳を除けばいずれの言語にも存在していない。本研究の根幹である『カルパラター』の翻訳発表は仏教説話文学における研究のみならず、仏教美術史における説話図の研究にもその進展に多大な貢献をしている。

本文の他の章は部分的であるが主に日本の研究者によっても翻訳されている。しかしながら未翻訳の章がまだ多く存在する。今後も着実に翻訳をすすめ、『カルパラター』全体像の把握に努めたい。

また、現在は邦訳のみの発表であるが、海外の研究者から英訳の発表が望まれていることを承知している。今後は英訳の発表も検討しながら研究を継続したい。

(2) チベットにおける本文に基づく絵画セットの解明

『カルパラター』に基づく絵画セットについては、チベットに多くの作例がある。普及版となった木版画の絵画セットに関しては先行研究があったが、そのほかのセットに関してはほとんど知られていなかった。本研究課題ではこれらの絵画セットについても解明を試みた。研究助成金によってインド、チベット、中国への現地調査が可能となり、さらに絵画資料を購入することができたため、研究が飛躍的にすすんだ。

木版画が中心となる「ナルタンの絵画セット」として知られている絵画セットの他に、それより前に成立していた「41幅からなる絵画セット」があることが判明した。さらに、そのセットは現在インドに所蔵されている

セットの他にも、中国の北京に三点の完全なセットが所蔵されていることが分かった。これらの絵画セットを現地調査で確認したところ、普及版の絵画と比して作ゆきが非常に優れており、制作当時の権力者から寺院等に贈られたセットであったことが分かった。本研究の成果である、『カルパラター』に基づく絵画セットについての新しい知見は中国やチベットの仏教美術史研究において大きなインパクトを与える。今後もさらなる解明を目指して研究を継続するが、これまでに日本語で発表した論考を英語で発表し公開することを検討している。

(3) 『カルパラター』を中心とする仏教信仰の諸相を扱う考察

『カルパラター』における重要なモチーフについてそのイメージを扱う研究や、インド北部を中心とする仏教信仰の諸相を考察した灌頂儀礼についての研究、釈尊の真骨の奉納についての研究を口頭発表や論文で表している。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 5件)

引田弘道、大羽恵美 (共著)「『ボーディサットヴァ・アヴァダーナ・カルパラター』第36章和訳」『人間文化：愛知学院大学人間文化研究所紀要』第31号 129-157頁 2016. (査読有)

引田弘道、大羽恵美 (共著)「『ボーディサットヴァ・アヴァダーナ・カルパラター』第35章和訳」『文学部紀要：愛知学院大学人間文化研究所紀要』第46号 37-54頁 2016. (査読有)

引田弘道、大羽恵美 (共著)「『ボーディサットヴァ・アヴァダーナ・カルパラター』第31章、34章和訳」『人間文化：愛知学院大学人間文化研究所紀要』第30号 240-213頁 2015. (査読有)

大羽恵美 「『ボーディサットヴァ・アヴァダーナ・カルパラター』にみられる龍王の図像」『密教図像』第34号 45-64頁 2015. (査読有)

引田弘道、大羽恵美 (共著)「『ボーディサットヴァ・アヴァダーナ・カルパラター』第32章、33章和訳」『人間文化：愛知学院大学人間文化研究所紀要』第29号 250-232頁 2014. (査読有)

[学会発表](計 4件)

引田弘道 「釈尊の真骨の奉納とウエスカ祭」日本仏教教育学会 2016年12月3日

愛知学院大学（愛知県名古屋市）

大羽恵美 『アヴァダーナ・カルパラター
(パクサムティシン)』の文献とタンカセッ
トについて 第 64 回日本チベット学会学術
大会 2016 年 11 月 19 日 身延山大学(山梨
県南巨摩郡身延町)

大羽恵美 “The Miracles at Sravasti in the
Tibetan paintings” The 6th International
Conference on Tibetan Archaeology and Arts,
2015 年 10 月 18 日 Zhejiang University, (浙
江大学) (中国浙江省杭州)

大羽恵美 「『ボーディサットヴァ・アヴァ
ダーナ・カルパラター』に見られる龍王の図
像について」『密教図像学会』第 34 回学術大
会、2014 年 12 月 13 日 東大寺ミュージアム
(奈良県奈良市)。

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕(計 0 件)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

引田弘道 (HIKITA, Hiromichi)

愛知学院大学・文学部・教授

研究者番号：00192287

(2) 研究分担者

大羽恵美 (OBA, Emi)

金沢大学・国際文化資源学センター・客員

研究員

研究者番号：50707685

(3) 連携研究者

なし

(4) 研究協力者

なし